

2015. 6. 10

歴史民俗資料館だより No.109

長崎市歴史民俗資料館

〒852-8117 長崎市平野町7番8号

TEL (095) 847-9245 (FAX 兼用)

<http://www.city.nagasaki.lg.jp/kanko/820000/828000/p009251.html>

～戦後 70 年を振り返る～

戦時中の暮らし展

会期 6月18日(木)～8月23日(日)

展示品 貨幣・紙幣・切手・軍事郵便葉書・手製の教科書・大東亜戦争世界要図・旭日旗寄せ書き・防空頭巾、もんぺ・精霊流し図など 約 150 点

昭和 12 (1937) 年の日中戦争勃発以降、第 2 次世界大戦へと向かい日本は戦時体制へと突入していきました。

そして長崎は、昭和 20 (1945) 年 8 月 9 日に原子爆弾が投下され、約 24 万人の市民の半数以上が死傷するという悲惨な被害を受けました。

その当時、人びとはさまざまな統制を強いられ、日常生活に必要な物も手に入りやすく代用品や代用食がさかんにつくられました。

今夏、日本は戦争の終結から、ちょうど 70 年を迎えます。戦後 70 年という大きな節目に、現在の豊かな生活と対比し、「戦争の悲惨さ」「平和の尊さ」を考える機会として、当館では ～戦後 70 年を振り返る～ 「戦時中の暮らし展」を開催します。

今回の展示に際しまして、貴重な資料を御寄贈、御提供いただきました荒木博美様、川口誠二様、野坂昭三様、松尾末夫様、森田勇様を始め、多くの市民の皆様と関係者各位に深く御礼申し上げます。



大東亜戦争世界要図

独、伊、ソ、米、英各国の主要根拠地が記されています。そして、それらの国への日本軍の攻撃状況が記載されています。昭和 一七 (一九四二) 年頃のもので、昭和



手製の教科書

昭和 20 (1945) 年に現物がなく、女学校の学生 (13～14 歳) が教師となり、小学 6 年生の教科書の挿絵を除き、1 冊 163 頁全てを筆写したものです。



戦時郵便貯金切手
金貳圓 昭和 18 年

戦時貯蓄債券
金拾五圓 昭和 19 年

多額の戦費調達のために、政府は各種国債を発行しました。

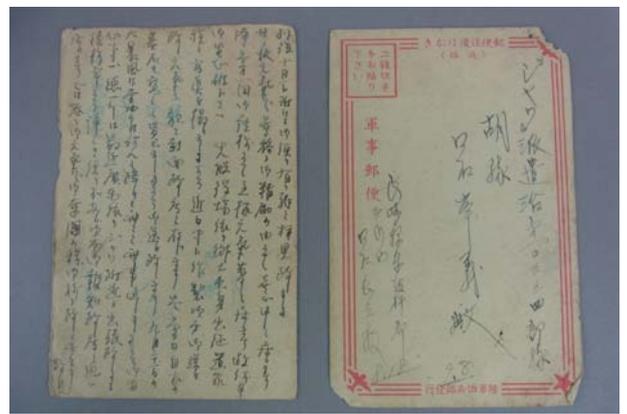


国防・防護団の記章

昭和 11 (1936) 年、戦時または事変に際し、警備・防空の必要に備える為、市内各種団体による市防護団がつけられました。翌年、国防婦人会長崎市支部ができました。



演藝写真新報
太平洋戦争が始まる昭和一六（一九四二）年十二月まで、月刊の娯楽雑誌として愛読されました。



軍事郵便葉書

戦地の軍人に宛てて日本(内地)から発送する、もしくは戦地にいる軍人から日本宛てに発送される葉書です。



旭国旗寄せ書き

出征兵士のために、友人、関係者から武運長久を祈願して寄せ書きされたものです。



防空頭巾ともんぺ
戦時中、空襲から頭部を保護するための防空頭巾と動きやすいともんぺ。よ欠かせないものとなりました。



精霊船と印灯籠
絵の中心三列に、バラエティ豊かな各種精霊船が描かれています。そして、天地、左右の周縁に、これまたバラエティ豊かな印灯籠が描かれています。大正八（一九一九）年頃の作です。



精霊流し図

文化功労者 鈴木信太郎・明治 28（1895）年～平成元（1989）年、94 歳没の長崎を代表する作品です。20 世紀後半作